

# 徳島県総合計画審議会 会議録

日時

平成 15 年 8 月 22 日(金) 10:00 ~ 12:10

会場

県庁 10 階大会議室

出席者

【委員】40名中27名出席

池上政弘委員、伊勢悦子委員、白杵秀子委員、大南信也委員、  
岡本富治委員、来代正文委員、金貞均委員、後藤修三委員、  
小林陽子委員、近藤光男委員、近藤利樹委員、住友俊一委員、  
曾良寛武委員、谷本マツエ委員、津川清委員、中央子委員、  
西川政善委員、早朝ミツ子委員、原宗一委員、藤坂菊市委員、  
藤本貴子委員、松崎美穂子委員、村澤普惠委員、森本尚樹委員、  
山下久義委員、吉野美保委員、利穂博委員

【 県 】知事、企画総務部長、各部局次長、総合政策室長 ほか

会議次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) オンリーワン徳島実現のための新たな行動計画について

(2) 意見交換

(3) その他

4 閉会

《配付資料》

オンリーワン徳島実現のための新たな行動計画について  
「しゃべり場とくしま」参加募集チラシ

## 議事録

### 1 開会

### 2 あいさつ

飯泉知事からあいさつ

- 3 議題 (1) オンリーワン徳島実現のための新たな行動計画について  
事務局から配付資料に基づき、計画骨子（素案）及び今後の進め方について説明。

### 4 議題 (2) 意見交換

総合計画審議会として「しゃべり場とくしま」に委員（希望する者）を出席させ、今後の審議の参考とすることが了承された。

#### （ 委 員 ）

自然生態系や環境の重要性を子どもの時から体験できるよう、自然体験型教育への取り組みをする必要がある。

県内の希少な生物については、RED DATA BOOK で概要が明らかになったが、それらの種についての追跡調査などを強力に進めてもらいたい。

本県においても、自然環境保全条例が制定されているが、今の環境に対応できていないと思うので、新しいものを作っていただきたい。東京都では「東京における自然の保護と回復に関する条例」を制定して、知事の許可がなければ開発できないというような細かいところまで決めている。

#### （ 委 員 ）

長安口ダムは貯水量が少なくなっているので、ダムの底に穴を空けて土砂を下流に流してはどうか。環境面から言っても、土砂はそのまま下流に流す方が良い。

市町村合併については、南海地震対策と関連させて、まず、広域行政の取り組みから始めていってはどうか。学校などの公共施設は、耐久性・耐震性を考慮して、統合して改修・改築するなどの行政指導を行い、広域で利用するようにしてほしい。

#### （ 県土整備部 ）

長安口ダムは、貯水能力を高めることが重要な問題で、堆砂をどう除くかが大きな課題である。土砂を外に持ち出す、トンネルで下流に流す、ダムに穴を空けるなどの方法があると思う。現在「那賀川フォーラム 2030」の中で議論されているところであり、検討を進めていきたい。

( 委 員 )

長安口ダムの問題は、下流の人間としては、土砂は下流に流してもらいたい。一気にではなく、台風の時に調節しながら流せば、下流に問題は起こらないと思う。

( 委 員 )

総論の中に、社会福祉の充実・向上の視点が明確でなく、薄められているように感じる。地方行政の基本課題であり、1つの柱として明記していただきたい。

地域に住む障害者に対する危機管理対策として、障害種類別の対応マニュアルが必要である。障害者の名簿は、法に阻まれて、公開して見せていただくわけにはいかない。行政しか名簿を持っていないため、障害者の団体としても把握できず、助けようがない。行政にしかできないことなので、計画の中に盛り込んで欲しい。

( 委 員 )

南海地震対策として死者ゼロを目指すならば、まず、住まいのことを考えないといけない。阪神・淡路大震災の死傷者の8割が住宅原因である。持ち家率が高い徳島県にとって、耐久性や耐震性の診断などが重要で、早急に対策が必要である。安全・安心とくしまに住宅対策を明記して欲しい。

( 委 員 )

横の繋がりが重要である。例えば食の安全や文化行政など、関連課の中で互いに連携をしてほしい。

新たな施策だけでなく、今までにあるものの見直しや整理・整頓が必要になってくるのではないか。

宣伝・広報をもっと上手にしてもらいたい。県が打ち出した方針をスムーズに伝える、多くの県民の目に簡単に届く工夫が必要ではないか。

( 委 員 )

「ユニバーサルとくしま」の趣旨の部分に、「少子高齢化」とあるが、「子育てしやすい環境づくり」あるいは「妊婦や乳幼児をもつ人が社会参加しやすい環境づくり」を入れていただきたい。

建築家の方がバリアフリーなどの考え方にに基づき設計等を行っても、実際の管理者がそれを周知されていない場合がある。

「公共事業ユニバーサルデザイン推進プラン」とひとにやさしいまちづくりとの関連性はあるのかどうか。

( 委 員 )

オンリーワンの具体例を、「 します」ではなく「 しています」と

いうものを早く示して欲しい。

「厳しい財政状況」がよく分かるような情報の提供を進めて欲しい。

産消連携の関連で、生産者と消費者の話合いの場はあるが、その間の流通が抜けていて、ネックになっている。流通の問題を考えて欲しい。

「とくしま廃棄物ゼロ社会づくり」に関連して、環境問題について、県内でも見学・研修ができるような施設・取組が欲しい。未だに県外に見学や研修に出かけている。四国にひとつでもいいので、素晴らしい施設があればと希望している。

食品などへの消費者の苦情について、県の組織の中に総合窓口を設置して欲しい。国、県、市町村、どこに言うべきなのか分かりにくい。

委員が会議で発言できなかった分は、文書などで提出することができるか。

( 会 長 )

発言できなかったことは、事務局まで連絡して欲しい。

( 知 事 )

オンリーワンの具体例について、意欲的に取り組んで参りたい。計画の策定、予算の審議などを経て、今後順に県民のみなさんにお示ししていく。

( 委 員 )

少人数学級を全県で実施することは喜んでいる。順次学年を繰り上げていってほしい。

環境、福祉・ボランティア、人権教育など、学校教育への期待が大きいですが、これに応じる総合的な学習などを十分に進めるため、多くの教員を必要としている。

障害のある子どもも地域の学校で学びたいと希望しているが、学校の施設が十分対応できていない。環境づくりを進めてほしい。

教室では大勢の友達と一緒に学習できにくい不登校状態の子どもたちが、学校に来られるような部屋づくりなど、子ども達の住みよい、また学習しやすい環境づくりをお願いしたい。

教科の評価、学校評価など様々な評価が進められているが、評価等については、多くの時間が必要である。研究所を設立し、そこでできたものに各校の工夫を加えるような対応が望まれる。静岡県では、研究所から資料や評価基準が出ている。

( 委 員 )

今後重点施策や主要事業レベルの論議となってくると、市町村行政との十分な関連づけが必要である。

p4 の(4)、基本理念のところは、「オンリーワン」は手法であり、順番は逆にして考えるべきではないか。

基本目標の目だし部分に、自然災害への対策や交通渋滞対策も文言として出しておくべきである。

交通渋滞対策を緩和する交通体系はどうあるべきか、陸海空の交通を含め、交通体系を新たに総合的に考える必要がある。

( 知 事 )

市町村行政との関連を考えるのは当然である。

総論部分の(4)の基本理念の順序は、そのほうが据わりがいいと思う。

計画の策定時には、基本目標の柱は何かというリードを2・3行付けて、さらにその下に具体的な施策をつけるというような工夫をしていきたい。

( 会 長 )

社会基盤整備はベースになるところなので、検討していただきたい。

( 委 員 )

「あわ文化の創造」は数値による管理や政策評価にはなじまない。3年という短期ではなく、長い目で見守っていくことが必要である。

「いいとくしま観光・交流の推進」は、地理的優位性というアプローチでは他の都道府県と同じになってしまう。「遅れている」ということを逆にとる方法もある。田舎ばかり紹介する欧米の旅行ガイドブック「ロンリープラネット」に掲載するよう、アドバイスをいただいた。外国から人を呼ぶことで、国内の人を呼ぶことも考えられる。

地震対策として県内で開発された簡単に折り畳めて持ち運びができるテントが紹介されていたが、このようなものを行政が率先して取り上げ、活用方法を見出していくことで、企業もおもしろいものを作っていこうという気運が生まれる。

( 会 長 )

目的・目標などを実現するためのタイムスパンは違うので、その辺も考慮していただきたい。

( 委 員 )

今回の企業の倒産に対する県のスピードのある対応には感謝したい。交通対策として、高速道路の南進を早く進めてほしい。

( 委 員 )

新しい取組も大切であるが「変えるべきもの」と「変えてはいけないもの」の見極めも大切である。計画の連続性にも目を向けてもらいたい。

オンリーワンということで長所を伸ばす方向に目がいきがちだが、社会資本などで全国でも下位にあるスポーツ施設について、問題意識を持ってもら

いたい。

財政が厳しい中、知恵を絞って、ソフト事業を重視することが重要である。スポーツ関連では、徳島では、スポーツ医科学委員会が進んでいる。

Jリーグは、欲しいけど、実現可能性について問題がある。

松山市の坊ちゃん球場などの施設は素晴らしいが、地方都市にこの規模が必要かと疑問に感じる。スポーツ関連施設については「身の丈に応じたもの」とする考え方も大切だと思う。

( 委 員 )

「環境首都とくしま」に関連して、環境対策としての重点施策例に、森林の吸収源対策を加えてほしい。

( 委 員 )

在住外国人が増えている中、「ユニバーサルとくしま」の趣旨に、「高齢者や障害者」に続き「外国人」を、「年代、性別」に続き「国籍」を文言として入れて欲しい。

「ユニバーサルなまちづくり」の展開は、ソフトの面で、心のユニバーサル化の考え方を組み込んで欲しい。

NPO・NGOと協力して、外国人を大切にすることなど、国際交流を進めることにより、活性化につながるのではないか。

( 会 長 )

「21世紀に向けてのくにづくり」の中でも、地球化、地球時代という言葉が使われている。徳島もそうなればいいと思っている。

( 委 員 )

計画は、実現していかないといけない。総予算や財源、いつまでにどのようなものを実現するといったことを明らかにするべきであると思う。

「コリドー」、「トレーサビリティ」など、難しい言葉が多い。

( 事務局 )

今は骨子の段階だか、今後、現状と達成の時期や目標などを入れていく。

( 委 員 )

市町村合併は、現状では合併特例法の期限がゴールになっているように思われる。戦略的というのであれば、生き活きとしたイメージがもっと生まれるような規模など、自治体の体力に合わせた合併の仕方というものを指導するべきではないか。

アスティとくしまは、休日でも人がいなかった。既存の施設を政策評価や特区などを活かして活用ができないか。

( 事務局 )

政策評価は平成 14 年から本格的に実施し、1,318 の事業について徹底的に見直した。15 年度も引き続き実施する。

( 委員 )

パブリックコメントやこの審議会で素晴らしい意見が出ると思われるが、3 回の審議会の中で、意見集約して煮詰めていくことができるのか心配になる。それをカバーするために小委員会を設置する考えはあるのか。

オンリーワンとくしまを実現していく中で、行政だけでなく、県民にそれぞれ取り組んでいただくことが必要である。県民がこぞって取り組むことを促すような方法は。

早い段階からオンリーワンとくしまの中身を県民に知らせる必要がある。委員にマスコミ関係者が必要ではないか。

( 会長 )

小委員会の設置は考えていない。

県総合政策室で案を作成し、皆さんからの意見などをいただいて、まとめていきたいと考えている。

マスコミ関係者に委員に入っていただくということは、即答はできないので、相談させていただきたい。

県民への周知をいかにするかは大きな課題で、皆さんの意見を伺いながら反映していきたい。ご意見をよろしくお願いしたい。

( 委員 )

県のようなプランは、どういうことを具体的にするのか、イメージが湧かないものが多い。財源も含めて、できるだけ具体的に細かく、目標数値など、すべてに盛り込んで欲しい。

( 会長 )

県当局においては、委員の意見やご提言を十分踏まえて、新しい行動計画の策定作業を進めて欲しい。

## 5 議事 (3) その他

審議会の会議録は会長が確認の上、速やかに公開することを提案し、了承された。

## 6 閉会

飯泉知事からあいさつ。

事務局から次回の審議会は 12 月に予定していることを連絡した。